

固瀬川渡

は土橋か、る、近年水高く、往くわんなん義の所なり、

〔源平盛衰記十九〕義朝首出獄事

左馬頭義朝ニハ贈官アリ、補太政大臣、首ヲバ蒔繪ノ手箱ニ入テ、錦袋ニ裏、文覺上人頸ニ懸タ  
リ、○中略文覺下ルト聞エケレバ、御迎ニトテ御使片瀬川マデ参タリ、既鎌倉ニ下著有ケレバ、下  
略

〔吾妻鏡八〕文治四年正月廿日丙辰二品○賴朝立鎌倉令參詣伊豆宮根三島社等給、廿六日壬戌、  
若公家○賴爲御迎參固瀬河邊給、自二所依可有還御也、

〔太平記十〕稻村崎成干渴事

去程ニ極樂寺ノ切通ヘ被向タル大館次郎宗氏、本間ニ被討テ、兵共片瀬腰越マデ引退ヌト聞  
ヘケレバ、新田義貞、逞兵二萬餘騎ヲ卒シテ、廿一日ノ夜半計ニ片瀬腰越ヲ打廻リ、極樂寺坂ヘ  
打蒞給フ、

〔夫木和歌抄二十四〕海道宿次百首相模河

うちわたすいまや玄ほひのかたせ河おもひしよりも淺き水哉

參議爲相卿

石瀬渡國

應造浮橋布施屋并置渡船事

一加増渡船十六艘中略

武藏國石瀬河三艘元一艘、今略二

右河等、崖岸廣遠、不得造橋、仍增件船中略

承和二年六月廿九日